

2 野菜

野菜類

(1) 耕種的防除法等(種子・種いも等の消毒)

病 害 虫 名	防 除 時 期	防 除 方 法
トマトかい よう病	植付前	○ 種子を55℃の温湯に25分間浸漬する。
ばれいしょ 黒あざ病	植付前	○ 切断後処理の場合は1 日ぐらい放置して切り口を乾かしてから粉衣する。
ばれいしょ そうか病	植付前	○ 種いもは切断しないものを用い、水洗はわずかに薬剤が残る程度にする。
にんにく黒 腐菌核病	植付前	○ 湿粉衣した種球は、乾燥した状態にしてから植え付ける。

1) 野菜類

○野菜類（種子消毒）

[illegible]

1) 野菜類

(1) 農薬の使用法

○種子消毒(種子処理機による種子粉衣)

FRAC コード	有効成分名	薬剤名	ピシウム菌による病害(苗立枯病等)	立枯病等	ピシウム・リゾクトニア菌による病害(苗立枯病等)	フザリウム・リゾクトニア菌による病害(立枯病等)	リゾクトニア菌による病害(苗立枯病等)	備考
7	フルトラニル	モンカット水和剤					○	種子処理機による種子粉衣
7	メブロニル	バシタック水和剤75					○	種子処理機による種子粉衣
M3	チウラム	チウラム80			○			種子処理機による種子粉衣
M4	キャブタン	オーソサイド水和剤80		○				種子処理機による種子粉衣

○野菜類(殺菌剤)

FRAC コード	有効成分名	薬剤名	うどんこ病	褐斑細菌病	黒腐病	さび病	白さび病	軟腐病	灰色かび病	斑点細菌病	べと病	備考
NC	炭酸水素カリウム	カリグリーン	○			○			○			トマト、ミニトマトを除く
NC	炭酸水素ナトリウム	ハーモメイト水溶剤	○						○			うどんこ病、灰色かび病のみ採用
M1	塩基性塩化銅	ドイツボルドーA						○			○	
M1	塩基性塩化銅	ボルドー						○			○	
M1	水酸化第二銅	コサイドDF		○	○			○				
UNE	プロピレングリコールモノ脂肪酸エステル	アカリタッチ乳剤	○									
-	ソルビタン脂肪酸エステル	ムシラップ	○									
-	ヒドロキシプロピルデンプン	粘着くん液剤	○									
-	ポリグリセリン脂肪酸エステル	フーモン	○									
-	還元澱粉糖化物	エコピタ液剤	○									いちご、トマト、ミニトマト、きゅうり、なすを除く
-	脂肪酸グリセリド	サンクリスタル乳剤	○									なす、トマト、ミニトマト、しゅんぎくを除く
NC/M1	炭酸水素ナトリウム/無水硫酸銅	ジーファイン水和剤	○				○	○				なすを除く
M2, I:UN	硫黄	イオウフロアブル	○									すいか、かぼちゃ、トマト、ミニトマト、ねぎ、わけぎ、あさつき、いちごを除く
M2, I:UN	硫黄	硫黄粉剤50	○									

○野菜類(生物農薬)

FRAC コード	有効成分名	薬剤名	うどんこ病	軟腐病	灰色かび病	備考
BM2	バチルス ズブチリス	エコショット			○	
BM2	バチルス ズブチリス	ボトキラー水和剤	○		○	
					○	ダクト内投入
BM2	バチルス ズブチリス	ボトピカ水和剤			○	
BM2	バチルス ズブチリス	バイオワーク水和剤	○		○	トマト、ミニトマトを除く
-	非病原性エルビニア カロトボーラ	バイオキーパー水和剤		○		かぼちゃ、ズッキーニを除く

1) 野菜類

○野菜類（殺虫剤）

IRAC コード	有効成分名	薬剤名	ア ブ ラ ム シ 類	オ オ タ バ コ ガ	コ ナ ガ	シ ロ イ チ モ ジ ヨ ト ウ	タ マ ナ ギ ン ウ ワ バ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	ハ ダ ニ 類	ヨ ト ウ ガ	備考
7C	ピリプロキシフェン	ラノーテープ			○						施設栽培 作物体付近に設置する
UNE	プロピレングリコールモノ脂肪酸エステル	アカリタッチ乳剤							○		
UN, F:M2	硫黄	クムラス							○		
UN, F:M2	硫黄	硫黄粉剤50							○		
- F:NC	調合油	サフオイル乳剤	○		○				○		いちご、トマト、ミニトマトを除く
-	(Z)-11-ヘキサデセナール (Z)-11-ヘキサデセニルアセテート (Z)-9-テトラデセニル-1-オール (Z)-9-ヘキサデセナール (Z)-11-ヘキサデセニル-1-オール (Z,E)-9,11-テトラデカジエニルアセテート (Z,E)-9,12-テトラデカジエニルアセテート (Z)-7-トリデセニルアセテート (Z)-7-トリデセニル-1-オール	コンフューザーV		○	○	○	○	○	○	○	交尾阻害 少なくとも30a以上のほ場全面に設置すること。
-	オレイン酸ナトリウム	オレート液剤	○		○						いちごを除く
-	ソルビタン脂肪酸エステル	ムシラップ	○		○				○		
-	ヒドロキシプロピルデンプン	粘着くん液剤	○		○				○		
-	還元澱粉糖化物	エコビタ液剤	○		○						いちご、トマト、ミニトマト、きゅうり、なすを除く
-	脂肪酸グリセリド	アーリーセーフ	○		○				○		なす、トマト、ミニトマト、しゅんぎくを除く
-	脂肪酸グリセリド	サンクリスタル乳剤	○		○				○		なす、トマト、ミニトマト、しゅんぎくを除く

1) 野菜類

○野菜類（昆虫病原性糸状菌剤）

IRAC コード	有効成分名	薬剤名	ア ブ ラ ム シ 類	ワ タ ア ブ ラ ム シ	コ ナ ガ	コ ナ ジ ラ ミ 類	ア ザ ミ ウ マ 類	備考
UNF	ペキロマイセス テヌイベス	ゴッツA	○					施設栽培
						○		施設栽培
UNF	ペキロマイセス フモソロセウス	プリファード水和剤		○		○		施設栽培（いちごを除く）
-	パーティシリウム レカニ	マイコタール				○		施設栽培
-	ポーベリア バシアーナ	ポタニガードES			○	○	○	
			○					

1) 野菜類

○野菜類（生物農薬（ＢＴ剤））

IRAC コード	有効成分名	薬剤名	ア オム シ	ウ リノ メイ ガ	オ オタ バコ ガ	コ ナ ガ	シ ロイ チモ ジヨ トウ	タ マナ ギン ウワ バ	ハ スモ ンヨ トウ	ヨ トウ ムシ	ハイ マダ ラノ メイ ガ	備考
11A	ＢＴ（生菌）	エコマスターＢＴ	○		○	○			○	○		
11A	ＢＴ（生菌）	エスマルクＤＦ	○		○	○				○		
11A	ＢＴ（生菌）	クオークフロアブル	○		○	○			○	○		
11A	ＢＴ（生菌）	サブリーナフロアブル	○		○	○			○	○		はくさいを除く
11A	ＢＴ（生菌）	ゼンターリ顆粒水和剤	○		○	○	○		○	○		はくさいを除く
11A	ＢＴ（生菌）	チューンアップ顆粒水和剤	○	○	○	○				○	○	トマト、ミニトマト除く
11A	ＢＴ（生菌）	デルフィン顆粒水和剤	○	○	○	○	○		○			
11A	ＢＴ（死菌）	トアローフロアブルＣＴ	○		○	○						
11A	ＢＴ（死菌）	トアロー水和剤ＣＴ	○			○				○		パセリ、えごま（葉）を除く
11A	ＢＴ（生菌）	バシレックス水和剤（注）	○			○		○	○	○		

（注）同名の剤であっても農薬会社によっては登録内容が異なることもあるので、使用する際は農薬の容器（袋）のラベルを確認する。

1) 野菜類

○野菜類（天敵製剤）

IRAC コード	有効成分名	薬剤名	登録薬剤の種類										備考
			アザミウマ類	アブラムシ類	オンシツコナジラミ	コナジラミ類	タバココナジラミ類	ネコブセンチュウ	ハダニ類	ハモグリバエ類			
-	アリガタシマアザミウマ	アリガタ	○									施設栽培	
-	イサエアヒメコバチ	ヒメトツブ									○	施設栽培	
-	オンシツツヤコバチ	エンストリップ					○					施設栽培	
-	オンシツツヤコバチ	ツヤコバチEF30					○					施設栽培	
-	オンシツツヤコバチ	ツヤトツブ				○						施設栽培	
-	オンシツツヤコバチ	ツヤバラリ					○					施設栽培	
-	ククメリスカブリダニ	ククメリス	○									施設栽培	
-	ククメリスカブリダニ	メリトツブ	○									施設栽培	
-	コレマンアブラバチ	アフィパール			○							施設栽培	
-	コレマンアブラバチ	コレトツブ			○							施設栽培	
-	コレマンアブラバチ	コレバラリ			○							施設栽培	
-	サバクツヤコバチ	エルカード					○					施設栽培	
-	サバクツヤコバチ	サバクトツブ					○					施設栽培	
-	スワルスキーカブリダニ	システムスワルクん	○				○					施設栽培（トマト、ミニトマトを除く）	
-	スワルスキーカブリダニ	スワルスキー						○				施設栽培	
-	スワルスキーカブリダニ	スワルスキープラス						○				施設栽培	
-	タイリクヒメハナカメムシ	オリスターA	○									施設栽培	
-	タイリクヒメハナカメムシ	タイリク	○									施設栽培	
-	タイリクヒメハナカメムシ	トスパック	○									施設栽培	
-	タイリクヒメハナカメムシ	リクトツブ	○									施設栽培	
-	チチュウカイツヤコバチ	ベミパール							○			施設栽培	
-	チリカブリダニ	スパイデックス								○		施設栽培	
-	チリカブリダニ	チリガブリ								○		施設栽培	
-	チリカブリダニ	チリトツブ								○		施設栽培	
-	ナミテントウ	ナミトツブ			○							施設栽培	
-	ナミテントウ	ナミトツブ20			○							施設栽培	
-	パストーリア ペネトランス	パストリア水和剤							○			土壌表面に散布し混和	
-	ハモグリミドリヒメコバチ	ミドリヒメ									○	施設栽培	
-	ミヤコカブリダニ	システムミヤコくん								○		施設栽培	
-	ミヤコカブリダニ	スパイカルEX								○			
-	ミヤコカブリダニ	スパイカルプラス									○		
-	ヤマトクサカゲロウ	カゲタロウ			○							施設栽培	
-	イサエアヒメコバチ／ハモグリコマユバチ	マイネックス									○	施設栽培	

きゅうり
(1) 耕種の防除法等

病 害 虫 名	防 除 適 期	防 除 方 法
うどんこ病	生育中	○ ハウス栽培では外の冷たい風が入らないように換気を工夫する。 ○ 乾燥をさけて一定の湿度を保つ。 ○ 抵抗性品種を使用する。
疫 病 (立枯性疫 病)	植付前 生育中	○ 床土を無病土に更新する。 ○ 支柱その他の資材を消毒する。 ○ 連作を避け、輪作年数を4年以上とする。 ○ 灌水は井戸水や水道水を用いる。 ○ 発病株は抜き取って、適切に処分する。 ○ 露地での全般発生期は、7月下旬～8月上旬であるので、薬剤の灌注時期をのがさないようにする。
黄 化 病	植付前 生育中	○ 播種床を寒冷紗で覆う。 ○ 育苗ハウスでは、ハウスの出入口及び側面に寒冷紗を張る。 ○ 早期に発病した株は、収穫が期待できないばかりでなく、伝染源となるので、早めに抜き取って処分する。 ○ 媒介昆虫のオンシツコナジラミを防除する。 ○ 防虫ネットを設置し、オンシツコナジラミの侵入を防止する。
褐 斑 病	植付前 生育中	○ ブルームレス台木を使用すると発病が助長される。 ○ ハウス栽培では換気を十分に行いハウス内が高温多湿になるのを防ぐ。 ○ 下葉の老化した発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。 ○ 窒素過多、肥料切れはともに発病が助長されるので、適切な肥培管理を心がける。
菌 核 病	植付前 生育中	○ 床土は無病のものを使用する。 ○ 発病跡地では、上層30cmの土壌と下層30cmの土壌の天地返しを行うのも良い。 ○ ハウス栽培では、紫外線除去フィルムを用いるとともに、低温多湿にならないように注意する。 ○ 開花中の花が多い時期の防除を徹底する。 ○ 低温多湿のときに発生しやすいので、早期発見に努め徹底防除を行う。 ○ 発病株は抜き取って適切に処分する。
黒 星 病	植付前 生育中	○ 健全な種子を選ぶ。 ○ ハウス内及び支柱その他の資材を消毒する。 ○ 低温多湿のときに発生しやすいので、早期発見に努め徹底防除を行う。
炭 疽 病	植付前 生育中	○ 健全な種子を選ぶ。 ○ 資材を消毒する。 ○ 敷わらを行い、雨滴の飛散を防ぐ。 ○ 被害株を適切に処分する。
つる枯病	植付前 定植時	○ 支柱、資材の消毒を行う。 ○ 無病苗を選んで植える。
つる割病	植付前 生育中 収穫後	○ 健全な種子を選ぶ。 ○ 接木栽培を行う。台木にはクロダネカボチャや雑種カボチャを用いる。 ○ 連作を避け、輪作年数をできるだけ長くする。 ○ ネコブセンチュウ抑制する緑肥を間作に作付けする。 ○ 土壌の塩類集積が進むと発病が多くなる。 ○ 発病株は、早期に抜き取り、適切に処分する。 ○ 発病地では、全株を集めて適切に処分する。
苗立枯病	植付前	○古い育苗培土は使用しない。
灰色かび病	植付前 生育中	○ 敷わらを行う。 ○ ハウス栽培では、紫外線除去フィルムを用いる。 ○ ハウス内が多湿にならないように注意する。 ○ 開花中の花が多い時期の防除を徹底する。 ○ 被害株は抜き取り、適切に処分する。

病 害 虫 名	防 除 適 期	防 除 方 法
斑点細菌病	植付前 生育中 収穫後	○ 畑土の排水を図り、多湿にならないようにする。 ○ ハウスでは通気を図り、多湿にならないようにする。特に二重カーテン使用時は多湿になりやすいので、注意が必要である。 ○ ハウス内では、構造による差もあるが、温度が低く湿気の滞りやすい場所に初発しやすいので、特に注意してハウス内の巡回を行う。 ○ 被害葉や被害果を放置したまま薬剤散布を行うと効果が低下する。 ○ 全面ポリマルチをして土のはね上がりで多湿を防ぐ。 ○ 初発時期に防除の徹底を図る。 ○ 被害茎葉は、随時、支柱等に付着しているものまでいねいに集めて焼却する。 ○ 全株を集めて適切に処分する。
べ と 病	生育中	○ 敷わらを行い、雨滴の飛散を防止する。 ○ ハウス栽培では多湿にならないように注意する。 ○ 肥料切れや根傷みにより発生しやすいので適正に肥培管理を行う。
モザイク病	生育中	○ シルバーストライプマルチを行い、有翅アブラムシの飛来を抑制する。 ○ アブラムシ類の発生源となる周辺雑草を除草する。

(2) 農薬の使用法

○きゅうり (殺菌剤)

FRAC コード	有効成分名	薬剤名	うどんこ病	褐斑病	菌核病	黒星病	炭疽病	つる枯病	灰色かび病	斑点細菌病	べと病	備考
1	チオファネートメチル	トップジンM水和剤			○	○	○	○	○			●希釈倍数使用量「1500倍」を採用 ●菌核病、黒星病、炭疽病、つる枯病、灰色かび病のみ採用
1	ベノミル	ベンレート水和剤			○	○			○			●希釈倍数使用量「2000倍」を採用 ●菌核病、黒星病、灰色かび病のみ採用
7	ペンチオピラド	アフエットフロアブル	○									●うどんこ病のみ採用
7	ボスカリド	カンタスドライフロアブル							○			●希釈倍数使用量「1500倍」を採用 ●灰色かび病のみ採用
11	アゾキシストロビン	アミスター20フロアブル		○			○					●褐斑病、炭疽病のみ採用
11	クレソキシムメチル	ストロビーフロアブル		○							○	●希釈倍数使用量「1500倍」を採用 ●べと病のみ採用
21	アミスルブロム	ライメイフロアブル									○	●褐斑病、べと病のみ採用
9	メパニピリム	フルピカくん煙剤	○						○			
9	メパニピリム	フルピカフロアブル	○	○					○			
12	フルジオキシニル	セイビアーフロアブル20		○					○			●希釈倍数使用量「1000倍」を採用 ●褐斑病、灰色かび病のみ採用
2	イブロジオン	ロブラールくん煙剤			○				○			
2	イブロジオン	ロブラール水和剤			○				○			●希釈倍数使用量「1000倍」を採用 ●菌核病、灰色かび病のみ採用
2	プロシミドン	スミレックスくん煙顆粒			○				○			
2	プロシミドン	スミレックス水和剤			○				○			●菌核病、灰色かび病のみ採用
3	トリフルミゾール	トリフミン水和剤	○									●希釈倍数使用量「3000倍」を採用 ●うどんこ病のみ採用
3	トリホリン	サブロール乳剤	○									●希釈倍数使用量「1000倍」を採用
3	ミクロブタニル	ラリー水和剤	○									●希釈倍数使用量「5000倍」を採用
19	ポリオキシシン複合体	ポリオキシシンAL水和剤	○									
40	ジメトモルフ	フェスティバル水和剤									○	
P2	プロベナゾール	オリゼメート粒剤								○		
P7	ホセチル	アリエッティ水和剤									○	●希釈倍数使用量「400倍」を採用
NC	マシン油	スプレーオイル	○									
M1	DBEDC	サンヨール	○									●うどんこ病のみ採用
M1	ノニルフェノールスルホン酸銅	ヨネボン水和剤								○		●斑点細菌病のみ採用
M1	塩基性塩化銅	ドイツボルドーA								○		●斑点細菌病のみ採用
M3, I:UN	マンゼブ	ジマンダイセン水和剤		○		○	○	○			○	●希釈倍数使用量「600倍」を採用 ●褐斑病、黒星病、炭疽病、つる枯病、べと病のみ採用
M3, I:UN	マンゼブ	ペンコゼブフロアブル					○				○	●希釈倍数使用量「500倍」を採用 ●炭疽病、べと病のみ採用
M4	キャプタン	オーソサイド水和剤80									○	●べと病のみ採用
M5	TPN	ダコニール1000	○	○		○	○				○	●うどんこ病、褐斑病、黒星病、炭疽病、べと病のみ作用
M7	イミノクタジナルベシル酸塩	ベルコート水和剤	○	○					○			●希釈倍数使用量「4000倍」を採用 ●うどんこ病、褐斑病、灰色かび病のみ採用
10/1	ジエトフェンカルブ／チオファネートメチル	ゲッター水和剤		○					○			●褐斑病、灰色かび病のみ採用

[illegible][illegible]

○きゅうり（殺虫剤）

IRAC コード	有効成分名	薬剤名	ミ カ ン キ イ ロ ア ザ ミ ウ マ	ミ ナ ミ キ イ ロ ア ザ ミ ウ マ	フ タ ア ブ ラ ム シ	ウ リ ハ ム シ	オ ン シ ツ コ ナ ジ ラ ミ	タ バ コ コ ナ ジ ラ ミ （ Q タ イ プ ）	タ ネ バ エ	ト マ ト ハ モ グ リ バ エ	ネ キ リ ム シ 類	ナ ミ ハ ダ ニ	カ ン ザ ワ ハ ダ ニ	フ タ ヘ リ ク ロ ノ メ イ ガ （ ウ リ ノ メ イ ガ ）	備考
1B	ダイアジノン	ダイアジノン粒剤 3（注）						○	○						
3A	アクリナトリン	アーデント水和剤	○									①	①		
4A	アセタミプリド	モスビラン顆粒水溶剤	②	②	③		④								
4A	アセタミプリド	モスビラン粒剤			③										
4A	イミダクロプリド	アドマイヤー 1 粒剤			③										
4A	イミダクロプリド	アドマイヤー顆粒水和剤		②	③										
4A	イミダクロプリド	アドマイヤー水和剤		②	③										
4A	クロチアニジン	ダントツ水溶剤				④									
4A	クロチアニジン	ダントツ粒剤			③		④								
4A	ジノテフラン	アルバリン顆粒水溶剤			③		④	④							
4A	ジノテフラン	アルバリン粒剤		②	③		④	④							
									⑤						
4A	ジノテフラン	スタークル顆粒水溶剤			③		④	④							
4A	ジノテフラン	スタークル粒剤		②	③		④	④							
									⑤						
4A	チアクロプリド	バリアード顆粒水和剤			③										
4A	チアメトキサム	アクタラ顆粒水溶剤			③										
4A	チアメトキサム	アクタラ粒剤 5			③				○						
4A	ニテンピラム	ベストガード水溶剤			③		④	④							
4A	ニテンピラム	ベストガード粒剤			③		④	④							
4C	スルホキサフロル	トランスフォームフロアブル			③		④								
5	スピノサド	スピノエース顆粒水和剤		②					⑤						
6	エマメクチン安息香酸塩	アフーム乳剤		②					⑤					○	
6	ミルベメクチン	コロマイト水和剤										①	①		
6	ミルベメクチン	コロマイト乳剤							⑤			①	①		
9B	ピメトロジン	チェス顆粒水和剤			③										
9B	ピリフルキナゾン	コルト顆粒水和剤			③		④	④							
10A	ヘキシチアゾクス	ニッソラン水和剤											①		
10B	エトキサゾール	パロックフロアブル										①	①		
11A	B T（生菌）	クオークフロアブル												○	
13	クロルフェナビル	コテツフロアブル	○	○								①	①	○	
15	フルフェノクスロン	カスケード乳剤		○					○					○	
16	ブプロフェジン	アブロード水和剤				⑥									
20B	アセキノシル	カネマイトフロアブル										①	①		
20D	ピフェナゼート	マイトコーネフロアブル										①	①		
21A	テブフェンピラド	ピラニカEW											①		
21A	フェンピロキシメート	ダニトロンフロアブル											①		
23	スピロテトラマト	モベントフロアブル	②	②	③		④	④				①	①		
28	シアントラニリブロール	ベネビアOD			③		④	④						○	
28	シアントラニリブロール	ベリマークSC	②	②	③		④	④							
4A/28	アセタミプリド／シアントラニリブロール	アベイル粒剤	②	②	③		④	④							
21A、 F:39	トルフェンピラド	ハチハチ乳剤	②		③		④								
UN、 F:M10	キノキサリン系	パルミノ					④	④							
UN、 F:M10	キノキサリン系	モレスタン水和剤					④								
5	脂肪酸グリセリド・スピノサド水和剤	ダブルシューターSE	②	②			④	④	⑤		①	①	○		

①ハダニ類での登録

②アザミウマ類での登録

④コナジラミ類での登録

⑤ハモグリバエ類での登録

⑥オンシツコナジラミ幼虫での登録

（注）同名の剤であっても農業会社によっては登録内容が異なることがあるので、使用する際は農業の容器（袋）のラベルを確認する。

トマト

(1)耕種的防除法等

病 害 虫 名	防 除 適 期	防 除 方 法
青 枯 病	植付前 生育中	○ ナス科作物の連作をしない。 ○ 排水を良くする。 ○ 抵抗性台木を用いて接木栽培を行う。 ○ 敷わらをする。(地温を下げる) ○ 発病株は早期に抜き取り、適切に処分する。
萎 凋 病	植付前 生育中 収穫後	○ 健全な種子を選ぶ。 ○ 連作をしない。 ○ 耐病性品種を栽培する。 ○ 萎凋病菌には品種によって病原性が異なるレース(1、2、3)があるので、品種を選択する際に注意する。 ○ 抵抗性台木を用いて接木栽培を行う。 ○ 促成・半促成栽培では十分に地温を確保して定植する。 ○ 土壌の塩類集積が進むと発病が多くなる。 ○ 発病株は早期に抜き取り、適切に処分する。 ○ 発病畑では、全株を集めて適切に処分する。
疫 病	植付前 生育中	○ 健全苗を植え付ける。 ○ 支柱や温床の枠などを消毒して使用する。 ○ ばれいしょ畑の近くではトマトを栽培しない。 ○ 敷きわらやマルチを行って、土からの病原菌のはね上がりを防ぐ。 ○ ハウスの換気や排水を図り、多湿を避ける。 ○ 罹病葉、病果は直ちに摘み取って焼却する。 ○ 窒素肥料の過用や偏用を避ける。 ○ ハウスのサイド近くなど温度が下がりやすく多湿になりやすいところから発生しやすいので注意して管理・防除する。
かいよう病	植付前 生育中 収穫後	○ 発病畑で使用した資材を再利用する場合は消毒する。 ○ 発病株は直ちに抜き取り、汚染資材を撤去する。 ○ 発病畑では、全株を集めて適切に処分する。
菌 核 病	植付前 生育中	○ 床土は無病のものを使用する。 ○ 発病畑では、上層30cmの土壌と下層30cmの土壌の天地返しを行うのも良い。 ○ 床面のビニールマルチを行う。 ○ 発病前から予防剤を散布する。 ○ 発病株は抜き取って適切に処分する。 ○ 低温多湿で発生しやすいので注意する。
苗立枯病	植付前	○古い培土を使用しない。
灰色かび病	植付前 生育中	○ ハウス栽培では、紫外線除去フィルムを用いる。 ○ 換気を図り、低温多湿にならないように注意する。 ○ 受粉が終わった花卉は除去する。 ○ マルハナバチ訪花や振動受粉などにより着果させるとホルモン処理するよりも発生が少ない。
葉かび病	植付前 生育中	○ 前作で発病したところは資材を消毒する。 ○ ファン等を利用して通風をよくし、ハウス内を高温多湿にしない。 ○ 抵抗性品種もあるので適宜活用する。 ○ 肥料切れや多肥で発生するので適正な肥培管理を行う。
半身萎凋病	植付前	○抵抗性品種及び台木を利用する。
斑 点 病	植付前 生育中	○ 排水をよくする。 ○ 密植を避ける。 ○ 換気を図り、多湿にしない。

トマト

病 害 虫 名	防 除 適 期	防 除 方 法
輪 紋 病	植付前 生育中 収穫後	○ ハウス栽培では、紫外線除去フィルムを用いる。 ○ 肥切れ状態にならないように注意する。 ○ 収穫後、被害株を焼却する。
モザイク病	植付前 生育中 生育中	○ TMV(タバコモザイクウイルス) ・ 種子は無病株から採取する。 ・ 作業前に石鹸で十分手を洗う。 ・ 抵抗性品種を栽培する。 ・ 発病株は早期に抜き取り焼却する。 ○ CMV(キュウリモザイクウイルス) ・ シルバーストライプマルチを使用し、有翅アブラムシの飛来を防止する。 ・ 発病株は早期に抜き取り焼却する。 ・ ほ場周辺の雑草を除去する。 ○ 病原ウイルスは、接触伝染するTMVと、主としてアブラムシにより虫媒伝染をするCMVの2種類である。
黄化えそ病		○ TSWV (トマト黄化えそウイルス) ・ アザミウマ類により媒介される。 ・ 発病株は除去する。 ・ ほ場周辺の雑草を除去し、防虫ネットを設置する。
黄化葉巻病		○ TYLCV (トマト黄化葉巻ウイルス) ・ シルバーリーフコナジラミ等により媒介される。 ・ 汁液伝染はしない。 ・ 0.4mm目合いの防虫ネットを設置する。

(2) 農薬の使用方法
○トマト（殺菌剤）

FRAC コード	有効成分名	薬剤名	うどんこ病	疫病	かいよう病	菌核病	苗立枯病	灰色かび病	葉かび病	斑点病	輪紋病	
1	チオファネートメチル	トップジンM水和剤				○		○	○			
1	ベノミル	ベンレート水和剤						○				
7	イソピラザム	ネクスターフロアブル							○			
7	ピラジフルミド	パレード20フロアブル							○			
7	ベンチオピラド	アフエットフロアブル						○	○			
7	ボスカリド	カンタスドライフロアブル						○	○			
11	アゾキシストロビン	アミスター20フロアブル							○			
11	ピリベンカルブ	ファンタジスタ顆粒水和剤						○	○			
21	シアゾファミド	ランマンフロアブル		○								
9	メバニピリム	フルピカフロアブル						○				
12	フルジオキシニル	セイビアーフロアブル20						○				
2	イブロジオン	ロブラールくん煙剤						○				
2	イブロジオン	ロブラール水和剤						○		○		
3	ジフェノコナゾール	スコア顆粒水和剤							○			
3	トリフルミゾール	トリフミン水和剤							○			
3	トリフルミゾール	トリフミンジェット							○			
3	トリホリン	サプロール乳剤							○			
17	フェンピラザミン	ピクシオDF				○		○				
M1	塩基性塩化銅	ドイツボルドーA		○								
M3, I:UN	マンゼブ	ジマンダイセン水和剤		○							○	
M3, I:UN	マンゼブ	ペンコゼブフロアブル		○					○		○	
M4	キャプタン	オーソサイド水和剤80					○					
M5	TPN	ダコニール1000		○					○		○	
M7	イミノクタジナルベシル酸塩	ベルコート水和剤						○	○			
M7	イミノクタジナルベシル酸塩	ベルコートフロアブル						○				希釈倍率は「2000倍」を起用
BM2	パチルス アミロリクエファシエンス	インプレッションクリア	①					①	○			①野菜類での登録
10/1	ジエトフェンカルブ／チオファネートメチル	ゲッター水和剤				○		○	○			
10/2	ジエトフェンカルブ／プロシミドン	スミブレンド水和剤						○				
24/M1	カスガマイシン／塩基性塩化銅	カスミンボルドー		○	○				○		○	
17/12	フェンヘキサミド／フルジオキシニル	ジャストミート顆粒水和剤						○				
40/M1	ジメトモルフ／塩基性塩化銅	フェスティバルC水和剤		○								

○トマト（殺菌剤）

FRAC コード	有効成分名	薬剤名	うどんこ病	疫病	かいよう病	菌核病	苗立枯病	灰色かび病	葉かび病	斑点病	輪紋病	
27/11	シモキサニル／ファモキサドン	ホライズンドライフロアブル		○					○			
27/40	シモキサニル／ベンチアバリカルブイソプロピル	ベトファイター顆粒水和剤		○								
27/M3, I:UN	シモキサニル／マンゼブ	カーゼートPZ水和剤		○								
U6/3	シフルフェナミド／トリフルミゾール	パンチョTF顆粒水和剤	○									
U13/9	フルチアニル／メパニピリム	ショウチノスケフロアブル	○									
M1/-	硫酸銅五水塩／生石灰	4-4式ボルドー液		○								
M7/11	イミノクタジナルベシル酸塩／ピリペンカルブ	ファンベル顆粒水和剤						○				
I:- /19	プロピレングリコールモノ脂肪酸エステル/ポリオキシン複合体	デュアルサイド水和剤							○			
52	イブフルフェノキン	ミギワ10フロアブル						○				

○トマト（殺虫剤）

IRAC コード	有効成分名	薬剤名	ミ カ ン キ イ ロ ア ザ ミ ウ マ	ヒ ラ ズ ハ ナ ア ザ ミ ウ マ	ア ブ ラ ム シ 類	オ オ タ バ コ ガ	オ ン シ ツ コ ナ ジ ラ ミ	タ バ コ コ ナ ジ ラ ミ （ Q タ イ プ）	オ オ ニ ジ ュ ウ ヤ ホ シ テ ン ト ウ	ト マ ト サ ビ ダ ニ	ネ キ リ ム シ	ト マ ト ハ モ グ リ バ エ	ア シ グ ロ ハ モ グ リ バ エ	ナ ス ハ モ グ リ バ エ	マ メ ハ モ グ リ バ エ	備 考
1B	MEP	スミチオン乳剤							○							防除指針では「オオニジュウヤホシテントウ」で掲載。
1B	アセフェート	オルトラン粒剤			○		○									防除指針では「アブラムシ類」、「オンシツコナジラミ」で掲載。
1B	イソキサチオン	カルホス粉剤									①					防除指針では「ネキリムシ類」で掲載。
1B	ダイアジノン	ダイアジノン粒剤3（注）									①					防除指針では「ネキリムシ類」で掲載。
4A	アセタミプリド	モスビラン顆粒水溶剤		②	○		③									防除指針では「アザミウマ類」、「アブラムシ類」、「オンシツコナジラミ」で掲載。
4A	イミダクロプリド	アドマイヤー1粒剤					③									防除指針では「オンシツコナジラミ」で掲載。
4A	クロチアニジン	ダントツ水溶剤			○		③					④	④	④	④	防除指針では「アブラムシ類」、「オンシツコナジラミ」、「ハモグリバエ類」で掲載。
4A	クロチアニジン	ダントツ粒剤			○		③					④			④	防除指針では「アブラムシ類」、「オンシツコナジラミ」、「ハモグリバエ類」で掲載。
4A	ジノテフラン	アルバリン粒剤			○		③	③				④	④	④	④	防除指針では「アブラムシ類」、「コナジラミ類」、「ハモグリバエ類」で掲載。
4A	ジノテフラン	スタークル粒剤			○		③	③				④	④	④	④	防除指針では「アブラムシ類」、「コナジラミ類」、「ハモグリバエ類」で掲載。
4A	チアメトキサム	アクタラ粒剤5					③					④	④	④	④	防除指針では「オンシツコナジラミ」、「ハモグリバエ類」で掲載。
4A	ニテンピラム	ベストガード水溶剤		②	○		③	③								防除指針では「アザミウマ類」、「アブラムシ類」、「コナジラミ類」で掲載。
5	スピネトラム	ディアナSC	②	②			③	③								防除指針では「アザミウマ類」、「コナジラミ類」で掲載。
5	スピノサド	スピノエース顆粒水和剤	②	②		○						④	④	④	④	防除指針では「アザミウマ類」、「オオタバコガ」、「ハモグリバエ類」で掲載。
6	エマメクテン安息香酸塩	アフーム乳剤				○				○					④	防除指針では「オオタバコガ」、「トマトサビダニ」、「マメハモグリバエ」で掲載。
6	ミルベメクテン	コロマイト乳剤										④	④	④	④	防除指針では「ハモグリバエ類」で掲載。
6	レビメクテン	アニキ乳剤				○	③	③				④	④	④	④	防除指針では「オオタバコガ」、「コナジラミ類」、「ハモグリバエ類」で掲載。
9B	ビリフルキナゾン	コルト顆粒水和剤					③	③								防除指針では「コナジラミ類」で掲載。
13	クロルフェナビル	コテツフロアブル				○										防除指針では「オオタバコガ」で掲載。
15	クロルフルアズロン	アタブロン乳剤				○										防除指針では「オオタバコガ」で掲載。
15	テフルベンズロン	ノーモルト乳剤					③									防除指針では「オンシツコナジラミ」で掲載。
15	ノバルロン	カウンター乳剤					③									防除指針では「オンシツコナジラミ」で掲載。
15	フルフェノクスロン	カスケード乳剤	○			○						○			○	防除指針では「ミカンキイロアザミウマ」、「オオタバコガ」、「トマトハモグリバエ」、「マメハモグリバエ」で掲載。
15	ルフエスロン	マッチ乳剤	○			○										防除指針では「ミカンキイロアザミウマ」、「オオタバコガ」で掲載。
16	ブプロフェジン	アブロード水和剤					⑤									防除指針では「オンシツコナジラミ」で掲載。
17	シロマジン	トリガード液剤										④	④	④	④	防除指針では「ハモグリバエ類」で掲載。
20D	ビフェナゼート	マイトコーネフロアブル							○							防除指針では「トマトサビダニ」で掲載。
23	スピロテトラマト	モベントフロアブル	②	②	○		③	③		○						防除指針では「アザミウマ類」、「アブラムシ類」、「コナジラミ類」、「トマトサビダニ」で掲載。
23	スピロメシフェン	クリアザールフロアブル					③	③								防除指針では「コナジラミ類」で掲載。
28	クロラントラニリブロール	ブレバソソフロアブル5				○						④	④			防除指針では「オオタバコガ」、「ハモグリバエ類」で掲載。
28	シアントラニリブロール	ブリロソソ粒剤	②	②	○		③	③								防除指針では「アザミウマ類」、「アブラムシ類」、「コナジラミ類」で掲載。
28	フルベンジアミド	フェニックス顆粒水和剤				○										防除指針では「オオタバコガ」で掲載。
28	テトラニリブロール	ヨーバルフロアブル					③	③				④	④	④	④	防除指針では「コナジラミ類」、「ハモグリバエ類」で掲載。
							③	③				④	④	④	④	防除指針では「コナジラミ類」、「ハモグリバエ類」で掲載。
29	フロニカミド	ウララDF			○		③	③								防除指針では「アブラムシ類」、「コナジラミ類」で掲載。
UN	ピリダリル	ブレオフロアブル				○						④	④	④	④	防除指針では「オオタバコガ」、「ハモグリバエ類」で掲載。
-	還元澱粉糖化物	エコビタ液剤			○		③	③								防除指針では「アブラムシ類」、「コナジラミ類」で掲載。
~ F:NC	調合油	サフオイル乳剤					③	③								防除指針では「コナジラミ類」で掲載。
~ F:M1	DBEDC	サンヨール					③									防除指針では「オンシツコナジラミ」で掲載。
21A/16	フェンピロキシメート／ブプロフェジン	アブロードエースフロアブル					③									防除指針では「オンシツコナジラミ」で掲載。
UN、 F:M10	キノキサリン系	モレストン水和剤					③									防除指針では「オンシツコナジラミ」で掲載。
~F:19	プロピレングリコールモノ脂肪酸エステル／ポリオキシン複合体	デュアルサイド水和剤	②	②												防除指針では「アザミウマ類」で掲載。
30	フルキサメタミド	グレーシア乳剤	②	②			③	③		○		④	④	④	④	防除指針では「アザミウマ類」、「コナジラミ類」、「ハモグリバエ類」、「トマトサビダニ」、「トマトキバガ」で掲載。
-	脂肪酸グリセリド・スピノサド水和剤	ダブルシューターSE	②	②	○	○	③	③				④	④	④	④	防除指針では「ハダニ類」、「コナジラミ類」、「アザミウマ類」、「ハモグリバエ類」、「オオタバコガ」、「トマトキバガ」で掲載。

①ネキリムシ類での登録、②アザミウマ類での登録、③コナジラミ類での登録、④ハモグリバエ類での登録、⑤オンシツコナジラミ幼虫での登録

（注）同名の剤であっても農業会社によっては登録内容が異なることもあるので、使用する際は農薬の容器（袋）のラベルを確認する。

ミニトマト

(1)耕種的防除法等

病 害 虫 名	防 除 適 期	防 除 方 法
青 枯 病	植付前 生育中	○ ナス科作物の連作をしない。 ○ 排水を良くする。 ○ 抵抗性台木を用いて接木栽培を行う。 ○ 敷わらをする。 ○ 発病株は早期に抜き取り、適切に処分する。
萎 凋 病	植付前 生育中 収穫後	○ 健全な種子を選ぶ。 ○ 連作をしない。 ○ 耐病性品種を栽培する。 ○ 萎凋病菌には品種によって病原性が異なるレース(1、2、3)があるので、品種を選択する際に注意する。 ○ 抵抗性台木を用いて接木栽培を行う。 ○ 促成・半促成栽培では十分に地温を確保して定植する。 ○ 土壌の塩類集積が進むと発病が多くなる。 ○ 発病株は早期に抜き取り、適切に処分する。 ○ 発病畑では、全株を集めて適切に処分する。
疫 病	植付時 生育中	○ 健全苗を植え付ける。 ○ 支柱や温床の枠などを消毒して使用する。 ○ ばれいしょ畑の近くではトマトを栽培しない。 ○ 敷きわらやマルチを行って、土からの病原菌のはね上がりを防ぐ。 ○ ハウスの換気や排水を図り、多湿を避ける。 ○ 罹病葉、罹病果は直ちに摘み取って焼却する。 ○ 窒素肥料の過用や偏用を避ける。 ○ ハウスのサイド近くなど温度が下がりやすく多湿になりやすいところから発生しやすいので注意して管理・防除する。
かいよう病	植付前 生育中 収穫後	○ 発病畑で使用した資材を再利用する場合は消毒する。 ○ 発病株は直ちに抜き取り、汚染資材を撤去する。 ○ 発病畑では、全株を集めて適切に処分する。
菌 核 病	植付前 生育中	○ 床土は無病のものを使用する。 ○ 発病畑では、上層30cmの土壌と下層30cmの土壌の天地返しを行うのも良い。 ○ 床面にビニールマルチを行う。 ○ 発病前から予防剤を散布する。 ○ 発病株は抜き取って適切に処分する。 ○ 低温多湿で発生しやすいので注意する。
苗立枯病	植付前	○ 定植床と苗床の土壌消毒を行う。(「土壌消毒」の項参照)
灰色かび病	植付前 生育中	○ ハウス栽培では、紫外線除去フィルムを用いる。 ○ 換気を行い、低温多湿にならないように注意する。 ○ 受粉が終わった花卉は除去する。 ○ マルハナバチ放花や振動受粉などにより着果させるとホルモン処理するよりも発生が少ない。
葉かび病	植付前 生育中	○ 抵抗性品種もあるので適宜活用する。 ○ ファン等を利用して通風をよくし、ハウス内を高温多湿にしない。 ○ 肥料切れや多肥で発生するので、適正な肥培管理を行う。
半身萎凋病	植付前	○ 抵抗性品種及び台木を利用する。
斑 点 病	植付時 生育中	○ 排水をよくする。 ○ 密植を避ける。 ○ 換気を図り、多湿にしない。

ミニトマト

病 害 虫 名	防 除 適 期	防 除 方 法
輪 紋 病	植付前 生育中 収穫後	○ ハウス栽培では、紫外線除去フィルムを用いる。 ○ 肥料切れ状態にならないように注意する。 ○ 収穫後、被害株を焼却する。
モザイク病	植付前 生育中 生育中	○ 病原ウイルスは、接触伝染するTMVと、主としてアブラムシにより虫媒伝染するCMVの2種類である。 ○ TMV(タバコモザイクウイルス) ・ 種子は無病株から採取する。 ・ 作業前に石鹸で十分手を洗う。 ・ 抵抗性品種を栽培する。 ・ 発病株は早期に抜き取り焼却する。 ○ CMV(キュウリモザイクウイルス) ・ シルバーストライプマルチを使用し、有翅アブラムシの飛来を防止する。 ・ 発病株は早期に抜き取り焼却する。 ・ ほ場周辺の雑草を除去する。 ・ アブラムシ類の発生源となる周辺雑草を除草する。

(2) 農薬の使用方法

○ミニトマト（殺菌剤）

FRAC コード	有効成分名	薬剤名	疫 病	菌 核 病	灰 色 か び 病	葉 か び 病	斑 点 病	輪 紋 病	
1	チオファネートメチル	トップジンM水和剤		○	○	○			
9	メパニピリム	フルピカフロアブル			○				
2	イプロジオン	ロブラールくん煙剤			○				
2	イプロジオン	ロブラール水和剤			○		○	○	
3	トリフルミゾール	トリフミン水和剤				○			●葉かび病のみ採用
3	トリフルミゾール	トリフミンジェット				○			
17	フェンピラザミン	ピクシオDF		○	○				
M1	銅水和剤	Zボルドー	○					○	●疫病、輪紋病のみ採用
M1	銅水和剤	ドイツボルドーA	○						
M7	イミノクタジナルベシル酸塩	ベルコート水和剤			○	○			
M7	イミノクタジナルベシル酸塩	ベルコートフロアブル				○			●葉かび病のみ採用
10/1	ジエトフェンカルブ／チオファ ネートメチル	ゲッター水和剤		○	○	○			
27/40	シモキサニル／ベンチアバリカ ルブイソプロピル	ベトファイター顆粒水和 剤	○						

○ミニトマト（殺虫剤）

IRAC コード	有効成分名	薬剤名	ミ カン キ ロ ア ザ ミ ウ マ	ヒ ラ ズ ハ ナ ア ザ ミ ウ マ	ア ブ ラ ム シ 類	オ オ タ バ コ ガ	オ ン シ ツ コ ナ ジ ラ ミ	タ バ コ コ ナ ジ ラ ミ （ Q タ イ プ ）	ト マ ト サ ビ ダ ニ	ネ キ リ ム シ	ト マ ト ハ モ グ リ バ エ	ア シ グ ロ ハ モ グ リ バ エ	ナ ス ハ モ グ リ バ エ	マ メ ハ モ グ リ バ エ	備考
1B	イソキサチオン	カルホス粉剤								①					防除指針では「ネキリムシ類」で掲載
4A	アセタミプリド	モスピラン顆粒水溶剤		②											防除指針では「アザミウマ類」で掲載
4A	イミダクロプリド	アドマイヤー1粒剤					③								防除指針では「オンシツコナジラミ」で掲載
4A	クロチアニジン	ダントツ水溶剤								④	④	④	④		防除指針では「ハモグリバエ類」で掲載
4A	クロチアニジン	ダントツ粒剤			○		③			④				④	防除指針では「アブラムシ類」、「オンシツコナジラミ」、「ハモグリバエ類」で掲載
4A	ジノテフラン	アルバリン粒剤			○		③	③		④	④	④	④		防除指針では「アブラムシ類」、「コナジラミ類」、「ハモグリバエ類」で掲載
4A	ジノテフラン	スタークル粒剤			○		③	③		④	④	④	④		防除指針では「アブラムシ類」、「コナジラミ類」、「ハモグリバエ類」で掲載
4A	ニテンピラム	ベストガード水溶剤		②	○		③	③							防除指針では「アザミウマ類」、「アブラムシ類」、「コナジラミ類」で掲載
5	スピネトラム	ディアナSC	②	②			③	③							防除指針では「アザミウマ類」、「コナジラミ類」で掲載
6	エマメクテン安息香酸塩	アフーム乳剤				○								④	防除指針では「オオタバコガ」、「マメハモグリバエ」で掲載
6	レピメクテン	アニキ乳剤	○			○	③	③		④	④	④	④		防除指針では「ミカンキイロアザミウマ」、「オオタバコガ」、「コナジラミ類」、「ハモグリバエ類」で掲載
9B	ピリフルキナゾン	コルト顆粒水和剤					③	③							防除指針では「コナジラミ類」で掲載
13	クロルフェナビル	コテツフロアブル				○									防除指針では「オオタバコガ」で掲載
15	クロルフルアズロン	アタブロン乳剤				○									防除指針では「オオタバコガ」で掲載
15	テフルベンズロン	ノーモルト乳剤					③								防除指針では「オンシツコナジラミ」で掲載
15	フルフェノクスロン	カスケード乳剤	○			○				○				○	防除指針では「ミカンキイロアザミウマ」、「オオタバコガ」、「トマトハモグリバエ」、「マメハモグリバエ」で掲載
15	ルフェヌロン	マッチ乳剤	○			○									防除指針では「ミカンキイロアザミウマ」、「オオタバコガ」で掲載
20D	ピフェナゼート	マイトコーネフロアブル							○						防除指針では「トマトサビダニ」で掲載
23	スピロテトラマト	モベントフロアブル	②	②	○		③	③	○						防除指針では「アザミウマ類」、「アブラムシ類」、「コナジラミ類」、「トマトサビダニ」で掲載
28	クロラントラニリプロール	ブレバソnfフロアブル5				○				④					防除指針では「オオタバコガ」、「ハモグリバエ類」で掲載
29	フロニカミド	ウララDF			○		③	③							防除指針では「アブラムシ類」、「コナジラミ類」で掲載
-, F: M1	DBEDC	サンヨール					③								防除指針では「オンシツコナジラミ」で掲載
30	フルキサメタミド	グレーシア乳剤	②	②			③	③	○	④	④	④	④	④	防除指針では「アザミウマ類」、「コナジラミ類」、「ハモグリバエ類」、「トマトサビダニ」で掲載

①ネキリムシ類での登録

②アザミウマ類での登録

③コナジラミ類での登録

④ハモグリバエ類での登録

ピーマン

(1) 耕種的防除法等

病 害 虫 名	防 除 適 期	防 除 方 法
青 枯 病	植付前	○ ナス科作物の連作をしない。 ○ 排水を良くする。 ○ 抵抗性台木を用いて接木栽培を行う。 ○ 敷わらや白マルチにより地温上昇を抑制する。
疫 病	植付前 生育中	○ 連作をしない。 ○ 高畝にし、排水を良くする。 ○ ハウス栽培では水のかけすぎに注意する。また、換気をはかり多湿を避ける。 ○ 灌水には、井戸水や水道水を用いる。 ○ 発病株は抜き取って焼却する。 ○ 健全株を植え付ける。 ○ ハウス栽培ではサイド近くなど温度が下がりやすく多湿になりやすいところから発生しやすいので注意して管理・防除する。
炭 疽 病	生育中 収穫後	○ 温室・ハウスなどでは多湿にならないよう換気する。 ○ 排水を図り、密植にしない。 ○ 発病果実は、直ちに摘果し焼却する。 ○ 全生育期間を通じて発生するが、温暖多雨時に発病が多い。 ○ 被害株を適切に処分する。
軟 腐 病	植付前 生育中 収穫後	○ 健全な種子を選ぶ。 ○ 排水に注意し、風通しを良くする。 ○ 野菜類の登録薬剤を処理してもよい（「野菜類の登録」の項 参照）。 ○ 発病畑では、全株を集めて適切に処分する。
灰色かび病	生育中	○ ハウス栽培ではファン等で換気をはかり、低温多湿にならないように注意する。
モザイク病	生育中	○ 育苗期間中から媒介昆虫のアブラムシ類を防除する。 ○ シルバーストライプマルチを行い、有翅アブラムシの飛来を抑制する。

(2) 農薬の使用方法

○ピーマン（殺菌剤）

FRAC コード	有効成分名	薬剤名	うどんこ病	疫病	苗立枯病	灰色かび病	備考
2	プロシミドン	スミレックス水和剤				○	●灰色かび病のみ採用
2	イプロジオン	ロブラール水和剤				○	●灰色かび病のみ採用
3	トリフルミゾール	トリフミン水和剤	○				
M4	キャプタン	オーソサイド水和剤 80			○		
M10, I:UN	キノキサリン系	モレスタン水和剤	○				

○ピーマン（殺虫剤）

IRAC コード	有効成分名	薬剤名	ワ タ ア ブ ラ ム シ	モ モ ア カ ア ブ ラ ム シ	タ バ コ ガ	ネ キ リ ム シ	ナ ミ ハ ダ ニ	カ ン ザ ワ ハ ダ ニ	ミ カ ン キ ロ ア ザ ミ ウ マ	備考
1B	ダイアジノン	ダイアジノン粒剤3（注）				①				防除指針では「ネキリムシ類」で掲載
3A	アクリナトリン	アーデント水和剤							○	防除指針では「ミカンキロアザミウマ」で掲載
3A	ペルメトリン	アディオン乳剤			○					防除指針では「タバコガ」で掲載
4A	イミダクロプリド	アドマイヤー1粒剤	②	②						防除指針では「アブラムシ類」で掲載
4A	イミダクロプリド	アドマイヤー顆粒水和剤	②	②						防除指針では「アブラムシ類」で掲載
4A	チアメトキサム	アクタラ顆粒水溶剤	②	②						防除指針では「アブラムシ類」で掲載
4A	チアメトキサム	アクタラ粒剤5	②	②						防除指針では「アブラムシ類」で掲載
5	スピネトラム	ディアナSC							③	防除指針では「アザミウマ類」で掲載
5	スピノサド	スピノエース顆粒水和剤							③	防除指針では「アザミウマ類」で掲載
9B	ピリフルキナゾン	コルト顆粒水和剤	②	②						防除指針では「アブラムシ類」で掲載
10A	ヘキシチアゾクス	ニッソラン水和剤						④		防除指針では「カンザワハダニ」で掲載
13	クロルフェナビル	コテツフロアブル					④	④	○	防除指針では「ハダニ類」、「ミカンキロアザミウマ」で掲載
20D	ビフェナゼート	マイトコーネフロアブル					④	④		防除指針では「ハダニ類」で掲載
21A	フェンピロキシメート	ダニトロンフロアブル						④		防除指針では「カンザワハダニ」で掲載
23	スピロテトラマト	モベントフロアブル	②	②			④	④	③	防除指針では「アブラムシ類」、「ハダニ類」、「アザミウマ類」で掲載
29	フロニカミド	ウララDF	②	②						防除指針では「アブラムシ類」で掲載

①ネキリムシ類での登録

②アブラムシ類での登録

③アザミウマ類での登録

④ハダニ類での登録

（注）同名の剤であっても農薬会社によっては登録内容が異なることもあるので使用する際は農薬の容器（袋）のラベルを確認する。

なす

(1) 耕種的防除法等

病虫害名	防除適期	防 除 方 法
青 枯 病	植付前	○ ナス科作物の連作をしない。 ○ 長なす系統は一般に強い。 ○ 排水を良くする。 ○ 抵抗性台木を用いて、接木栽培を行う。 ○ 敷わらやマルチにより地温上昇を抑制する。
褐色腐敗病	生育中	○ マルチや敷きわらをする。
褐 紋 病	植付前 収穫後	○ 健全な種子を選ぶ。 ○ 遅播き・密植を避け、適期に播種する。また、雨よけをすると発生が少なくなる。 ○ 本病は梅雨直後の気温上昇とともに発病し、9月上旬ごろ多発する。 ○ 排水不良地や密植、窒素過多は発病を多くする。 ○ 被害株を適切に処理する。
菌 核 病	植付前 生育中	○ 床土は無病のものを使用する。 ○ 発病畑では、上層30cmの土壌と下層30cmの土壌の天地返しを行うのも良い。 ○ 床面にビニールマルチを行う。 ○ 発病株は抜き取って適切に処理する。
すすかび病	生育中	○ 葉裏にもよく葉液を付着させる。 ○ 被害葉は除去し、適切に処理する。
苗立枯病	植付前	○ 床土は毎年新しいものを使用する。 ○ 排水と風通しを良くする。
灰色かび病	生育中	○ 敷わらをして、果実が直接地面に触れないようにする。 ○ 多雨、少照、低温の年に多発する。特にビニールハウス栽培に発生が多い。 ○ ハウス内の湿度を高めないようにし、風通しを良くする。 ○ マルハナバチ訪花や振動受粉などにより着果させるとホルモン処理よりも発生が少ない。
半身萎凋病	植付前 生育中 収穫後	○ 抵抗性台木を用いる。 ○ 病原菌は多犯性なので新しい床土を使用する。 ○ 発病株は直ちに抜き取り焼却する。 ○ 発病畑では、全株を集めて焼却する。
モザイク病	生育中	○ 育苗期間中から媒介昆虫のアブラムシ類を防除する。 ○ シルバーストライプマルチにより有翅アブラムシの飛来を抑制する。

(2) 農薬の使用法

○なす (殺菌剤)

FRAC コード	有効成分名	薬剤名	うどんこ病	褐色腐敗病	菌核病	すすかび病	苗立枯病	灰色かび病	備考
1	チオファネートメチル	トップジンM水和剤			○			○	
1	ベノミル	ベンレート水和剤						○	●灰色かび病のみ採用
50	ピリオフェノン	クロスアウトフロアブル	○						
7	イソピラザム	ネクスターフロアブル	○						●うどんこ病のみ採用
7	ピラジフルミド	パレード20フロアブル	○						●うどんこ病のみ採用
7	ペンチオピラド	アフェットフロアブル	○					○	●うどんこ病、灰色かび病のみ採用
11	クレソキシムメチル	ストロビーフロアブル	○						●うどんこ病のみ採用
21	シアゾファミド	ランマンフロアブル		○					
9	メパニピリム	フルピカフロアブル	○					○	
2	イブロジオン	ロブラール水和剤			○			○	●菌核病、灰色かび病のみ採用
2	プロシミドン	スミレックス水和剤			○			○	
3	トリフルミゾール	トリフミン水和剤	○			○			
3	トリフルミゾール	トリフミン乳剤				○			●すすかび病のみ採用
3	トリホリン	サブロール乳剤	○						
M4	キャプタン	オーソサイド水和剤80					○		
M5	TPN	ダコニール1000	○						●うどんこ病のみ採用
M7	イミノクタジナルベシル酸塩	ベルケート水和剤	○						●うどんこ病のみ採用
11/7	ピラクロストロビン/ボスカリド	シグナムWDG	○						●うどんこ病のみ採用
11/M5	アゾキシストロビン/TPN	アミスターオブティフロアブル				○			●すすかび病のみ採用
17/12	フェンヘキサミド/フルジオキシニル	ジャストミート顆粒水和剤						○	
27/11	シモキサニル/ファモキサドン	ホライズンドライフロアブル		○					
27/M5	シモキサニル/TPN	ブリザード水和剤	○						●うどんこ病のみ採用

○なす（殺虫剤）

IRAC コード	有効成分名	薬剤名	ミ カ ン キ イ ロ ア ザ ミ ウ マ	ミ ナ ミ キ イ ロ ア ザ ミ ウ マ	ワ タ ア ブ ラ ム シ	モ モ ア カ ア ブ ラ ム シ	オ オ ニ ジ ュ ウ ヤ ホ シ テ ン ト ウ	オ オ タ バ コ ガ	オ ン シ ツ コ ナ ジ ラ ミ	タ バ コ コ ナ ジ ラ ミ （ Q タイプ）	チャ ノ ホ コ リ ダ ニ	ネ キ リ ム シ	ナ ミ ハ ダ ニ	カン ザ ワ ハ ダ ニ	ト マ ト ハ モ グ リ バ エ	ア シ グ ロ ハ モ グ リ バ エ	ナ ス ハ モ グ リ バ エ	マ メ ハ モ グ リ バ エ	備考
1B	C Y A P	サイアノックス乳剤					①												防除指針では「オオニジュウヤホシテントウ」で掲載
1B	D M T P	スブラサイド水和剤							○										防除指針では「オンシツコナジラミ」で掲載
1B	M E P	スミチオン乳剤					①												防除指針では「オオニジュウヤホシテントウ」で掲載
1B	イソキサチオン	カルホス粉剤										②							防除指針では「ネキリムシ類」で掲載
1B	ダイアジノン	ダイアジノン粒剤3（注）										②							防除指針では「ネキリムシ類」で掲載
4A	アセタミプリド	モスピラン粒剤			③	③													防除指針では「アブラムシ類」で掲載
4A	イミダクロプリド	アドマイヤー1粒剤		④	③	③													防除指針では「アザミウマ類」、「アブラムシ類」で掲載
4A	イミダクロプリド	アドマイヤー水和剤		④	③	③													防除指針では「アザミウマ類」、「アブラムシ類」で掲載
4A	クロチアニジン	ダントツ水溶剤			③	③			⑤						⑥	⑥	⑥	⑥	防除指針では「アブラムシ類」、「オンシツコナジラミ」、「ハモグリバエ類」で掲載
4A	クロチアニジン	ダントツ粒剤			③	③			⑤									○	防除指針では「アブラムシ類」、「オンシツコナジラミ」、「マメハモグリバエ」で掲載
4A	ジノテフラン	アルバリン顆粒水溶剤			③	③			⑤	⑤									防除指針では「アブラムシ類」、「コナジラミ類」で掲載
4A	ジノテフラン	アルバリン粒剤		④	③	③			⑤	⑤					⑥	⑥	⑥	⑥	防除指針では「アザミウマ類」、「アブラムシ類」、「コナジラミ類」、「ハモグリバエ類」で掲載
4A	ジノテフラン	スタークル顆粒水溶剤			③	③			⑤	⑤									防除指針では「アブラムシ類」、「コナジラミ類」で掲載
4A	ジノテフラン	スタークル粒剤		④	③	③			⑤	⑤					⑥	⑥	⑥	⑥	防除指針では「アザミウマ類」、「アブラムシ類」、「コナジラミ類」、「ハモグリバエ類」で掲載
4A	チアクロプリド	バリアード顆粒水和剤							⑤										防除指針では「オンシツコナジラミ」で掲載
4A	チアメトキサム	アクタラ顆粒水溶剤			③	③			⑤										防除指針では「アブラムシ類」、「オンシツコナジラミ」で掲載
4A	チアメトキサム	アクタラ粒剤5	○		③	③			⑤									○	防除指針では「ミカンキイロアザミウマ」、「アブラムシ類」、「オンシツコナジラミ」、「マメハモグリバエ」で掲載
4A	ニテンピラム	ベストガード水溶剤			③	③			⑤	⑤									防除指針では「アブラムシ類」、「コナジラミ類」で掲載
4A	ニテンピラム	ベストガード粒剤			③	③													防除指針では「アブラムシ類」で掲載
5	スピネトラム	ディアナSC	④	④															防除指針では「アザミウマ類」で掲載
5	スピノサド	スピノエース顆粒水和剤	④	④															防除指針では「アザミウマ類」で掲載
6	エマメクチン安息香酸塩	アフーム乳剤						○			○							⑥	防除指針では「オオタバコガ」、「チャノホコリダニ」で掲載
6	ミルベメクチン	コロマイト水和剤											⑦	⑦					防除指針では「ハダニ類」で掲載
6	ミルベメクチン	コロマイト乳剤											⑦	⑦				⑥	防除指針では「ハダニ類」、「マメハモグリバエ」で掲載
9B	ピリフルキナゾン	コルト顆粒水和剤			③	③			⑤	⑤									防除指針では「アブラムシ類」、「コナジラミ類」で掲載
10A	ヘキシチアゾクス	ニッソラン水和剤													⑦				防除指針では「カンザワハダニ」で掲載
10B	エトキサゾール	バロックフロアブル											⑦	⑦					防除指針では「ハダニ類」で掲載
13	クロルフェナビル	コテツフロアブル						○											防除指針では「オオタバコガ」で掲載
16	ブプロフェジン	アブロード水和剤							⑧	⑧	⑧								防除指針では「コナジラミ類」、「ホコリダニ類」で掲載
20B	アセキノシル	カネマイトフロアブル									○		⑦	⑦					防除指針では「チャノホコリダニ」、「ハダニ類」で掲載
20D	ビフェナゼート	マイトコーネフロアブル											⑦	⑦					防除指針では「ハダニ類」で掲載
21A	フェンピロキシメート	ダニトロンフロアブル													⑦				防除指針では「カンザワハダニ」で掲載
23	スピロテトラマト	モベントフロアブル	④	④	③	③			⑤	⑤	○		⑦	⑦					防除指針では「アザミウマ類」、「アブラムシ類」、「コナジラミ類」、「チャノホコリダニ」、「ハダニ類」で掲載
25A	シエノピラフェン	スターマイトフロアブル													⑦	⑦			防除指針では「ハダニ類」で掲載
25A	シフルメトフェン	ダニサラバフロアブル													⑦	⑦			防除指針では「ハダニ類」で掲載
28	シアントラニリプロール	ペリマークSC			③	③													防除指針では「アブラムシ類」で掲載
29	フロニカミド	ウララDF	○		③	③			⑤										防除指針では「ミカンキイロアザミウマ」、「アブラムシ類」、「オンシツコナジラミ」で掲載
UN、 F・M10	キノキサリン系	モレスタン水和剤									○								防除指針では「チャノホコリダニ」で掲載
-	スワルスキーカブリダニ	スワルスキー ※	④	④															防除指針では「アザミウマ類」で掲載
28	テトラニリプロール	ヨーバルフロアブル	④	④															防除指針では「アザミウマ類」で掲載

①テントウムシダマシ又はテントウムシダマシ類での登録

②ネキリムシ類での登録

③アブラムシ類での登録

④アザミウマ類での登録

⑤コナジラミ類での登録

⑥ハモグリバエ類での登録

⑦ハダニ類での登録

⑧幼虫での登録

（注）同名の剤であっても農業会社によっては登録内容が異なることもあるので使用する際は農業の容器（袋）のラベルを確認する。

※ 野菜類（施設栽培）及び野菜類（露地栽培）で登録あり

いちご
(1) 耕種的防除法等

病 害 虫 名	防 除 適 期	防 除 方 法
萎 黄 病	定植前	○ 苗は、無病地の親株から取り、無病苗を定植する。 ○ 仮植前に苗根部をトップジンM水和剤またはベンレート水和剤で1時間浸漬する。 ○ 発病株は早期に抜き取り、適切に処分する。 ○ 発病畑では、全株を集めて適切に処分する。 ○ 排水をよくする。 ○ 高温の時は遮光などにより地温を下げる。
萎 凋 病	定植前 生育中 収穫後	○ 排水を良くし、土壌が多湿にならないようにする。 ○ 連作をしない。 ○ 苗は、無病地の親株から取り、無病苗を定植する。 ○ 発病株は早期に抜き取り、適切に処理する。 ○ 発病畑では、全株を集めて適切に処理する。
ウイルス病	定植前 定植後	○ 親株は毎年フリー苗に更新する。 ○ シルバーストライプマルチにより有翅アブラムシの飛来を抑制する。
うどんこ病	生育中	○ 冷たい風が直接ハウスに入らないように換気を工夫する。 ○ 冬期間は日中やや高温に管理する。 ○ UV-B電球形蛍光灯を夜間に3時間照射することでうどんこ病に対して抵抗性を高めることができる。
菌 核 病	定植前 生育中	○ 連作をしない。 ○ 地表面のビニールマルチを行う。 ○ 休耕中でも地表面にマルチを行うと良い。
じゃのめ病	育苗期	○ 被害葉は早期に摘み取り焼却する。 ○ 雨よけ育苗にする。 ○ 極端に肥料が切れないように管理する。
炭 疽 病	親株ほ～ 育苗期 育苗期 定植前 定植時 生育中	○ 親株は毎年更新する。 ○ 親株ほおよび苗床を雨よけにする。 ○ 頭上灌水を避け、茎葉に水がかからないようにチューブを用いて灌水する。 ○ 病原菌は降雨などの水によって伝染する。 ○ 葉はほ場内に放置せず、土中に埋めるか焼却する。 ○ 発病株や疑わしい株は直ちに抜き取り、適切に処分する。 ○ 発病株は直ちに抜き取り、適切に処分する。 ○ 育苗スペースを十分にとり、通気性を良くする。 ○ 高温時の採苗はさける。
根 腐 病	定植前 定植時	○ 排水を良くする。 ○ 連作をしない。 ○ 無病苗を定植する。
灰色かび病	生育中	○ 通風を良くして、多湿にしない。 ○ 被害葉や被害果はできるだけ早期に摘み取り、ハウス内に放置しないで焼却する。
芽 枯 病	定植前	○ 連作をしない。 ○ 無病苗を選んで定植し、深植を避ける。

(2) 農薬の使用法

○いちご(殺菌剤)

FRAC コード	有効成分名	薬剤名	萎 黄 病	う ど ん こ 病	じ ゃ の め 病	炭 疽 病	根 腐 病	灰 色 か び 病	備考
1	チオファネートメチル	トップジンM水和剤	○						
			○						
				○					
1	ベノミル	ベンレート水和剤	○						●①本ぼ定植後は収穫30日前までに1回以内。ただし、ベノミルを含む農薬の総使用
			○						●①本ぼ定植後は収穫30日前までに1回以内。ただし、ベノミルを含む農薬の総使用
50	ピリオフェノン	クロスアウトフロアブル		○					
7	イソピラザム	ネクスターフロアブル		○					●うどんこ病のみ採用
7	ピラジフルミド	パレード20フロアブル		○				○	
7	ペンチオピラド	アフェットフロアブル		○				○	
7	ボスカリド	カンタスドライフロアブル						○	
11	アゾキシストロビン	アミスター20フロアブル		○					●うどんこ病のみ採用
11	クレソキシムメチル	ストロビーフロアブル		○					
11	ピリベンカルブ	ファンタジスタ顆粒水和剤						○	●灰色かび病のみ採用
9	メバニピリム	フルピカくん煙剤		○				○	
9	メバニピリム	フルピカフロアブル		○				○	
12	フルジオキシニル	セイビアーフロアブル20						○	
						○			●炭疽病のみ採用
2	イブロジオン	ロブラールくん煙剤						○	
2	イブロジオン	ロブラール水和剤						○	●灰色かび病のみ採用
2	プロシミドン	スミレックス水和剤						○	●灰色かび病のみ採用
2	プロシミドン	スミレックスくん煙顆粒						○	
3	シメコナゾール	サンリット水和剤		○					●うどんこ病のみ採用
3	トリフルミゾール	トリフミン水和剤		○	○				
3	トリフルミゾール	トリフミンジェット		○					
3	トリホリン	サブロール乳剤		○					
3	ミクロブタニル	ラリー水和剤		○					
3	ミクロブタニル	ラリー乳剤		○					
19	ポリオキシシン複合体	ポリオキシシンAL水和剤		○				○	
M1	DBEDC	サンヨール		○				○	
M1	有機銅	キノンドーフロアブル				○			
M3	プロピネブ	アントラコール顆粒水和剤				○			
M3	マンゼブ	ジマンダイセン水和剤			○	○			
M4	キャプタン	オーソサイド水和剤80				○		○	●炭疽病、灰色かび病のみ採用
M7	イミノクタジンアルベシ	イミノクタジンアルベシ水和剤				○			●炭疽病のみ採用

〇いちご（殺菌剤）

FRAC コード	有効成分名	薬剤名	萎黄病	うどんこ病	じやのめ病	炭疽病	根腐病	灰色かび病	備考
M7	ル酸塩	ヘルグート水和剤		○					
M9	ジチアノン	デランフロアブル				○			
BM2	パチルス アミロリクエファシエンス	インプレッションクリア（生物農薬）		②					●②野菜類での登録 ●うどんこ病のみ採用
BM2	パチルス ズブチリス	セレナーデ水和剤（生物農薬）		②					●②野菜類での登録
BM2	パチルス ズブチリス	ボトキラー水和剤（生物農薬）						②	●②野菜類での登録
				②					●②野菜類での登録
10/1	ジエトフェンカルブ／チオファネートメチル	ゲッター水和剤				○			
11/7	ピラクロストロビン／ボスカリド	シグナムWDG		○					●うどんこ病のみ採用
17/12	フェンヘキサミド／フルジオキシニル	ジャストミート顆粒水和剤						○	
U6/3	シフルフェナミド／トリフルミゾール	パンチョTF顆粒水和剤		○					
U13/9	フルチアニル／メパニピリム	ショウチノスケフロアブル		○					●うどんこ病のみ採用
M1/BM2	水酸化第二銅／パチルスズブチリス	クリーンカップ（生物農薬）		②					●②野菜類での登録
M7/50	イミノクタジナルベシル酸塩／ピリオフェノン	ラミック顆粒水和剤		○				○	
M7/11	イミノクタジナルベシル酸塩／ピリベンカルブ	ファンベル顆粒水和剤		○					●うどんこ病のみ採用
39, I:21A	トルフェンピラド	ハチハチフロアブル		○					
M2, I:UN	硫黄	イオウフロアブル		○					
M2, I:UN	硫黄	サルファーゾル		○					
M10, I:UN	キノキサリン系	モレストン水和剤		○					

①本ほ定植後は収穫30日前までに1回以内。ただし、ベノミルを含む農薬の総使用回数は本ほ定植後はかん注1回以内、散布3回以内なので注意すること。

②野菜類での登録

○いちご（殺虫剤）

IRAC コード	有効成分名	薬剤名	ミ カ ン キ イ ロ ア ザ ミ ウ マ	ヒ ラ ズ ハ ナ ア ザ ミ ウ マ	ワ タ ア ブ ラ ム シ	イ チ ゴ ケ ナ ガ ア ブ ラ ム シ	ヒ ゲ ナ ガ ア ブ ラ ム シ	オ ン シ ツ コ ナ ジ ラ ミ	ネ キ リ ム シ 類	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	ナ ミ ハ ダ ニ	カ ン ザ ワ ハ ダ ニ	備 考
1B	ホスチアゼート	ネマトリンエース粒剤									①	①	防除指針では「ハダニ類」で掲載
1B	マラソン	マラソン乳剤	○		②	②							防除指針では「ミカンキイロアザミウマ」、「イチゴケナガアブラムシ」、「ヒゲナガアブラムシ」で掲載
3A	アクリナトリン	アーデント水和剤	○		②	②							防除指針では「ミカンキイロアザミウマ」、「イチゴケナガアブラムシ」、「ヒゲナガアブラムシ」で掲載
3A	フルバリネート	マブリック水和剤20			②	②							防除指針では「イチゴケナガアブラムシ」、「ヒゲナガアブラムシ」で掲載
3A	ベルメトリン	アディオン乳剤			②	②							防除指針では「イチゴケナガアブラムシ」、「ヒゲナガアブラムシ」で掲載
3A	ベルメトリン	ガードベイトA							○				防除指針では「ネキリムシ類」で掲載
4A	アセタミプリド	モスビラン顆粒水溶剤		②	②	②							防除指針では「アブラムシ類」で掲載
4A	アセタミプリド	モスビラン粒剤	③	③			④						防除指針では「アザミウマ類」、「オンシツコナジラミ」で掲載
4A	アセタミプリド	モスビラン粒剤		②	②	②							防除指針では「アブラムシ類」で掲載
4A	イミダクロプリド	アドマイヤー1粒剤		②	②	②							防除指針では「アブラムシ類」で掲載
4A	ジノテフラン	アルバリン粒剤		○									防除指針では「ワタアブラムシ」で掲載
4A	ジノテフラン	スタークル粒剤		○									防除指針では「ワタアブラムシ」で掲載
4A	チアクロプリド	バリアード顆粒水和剤		②	②	②							防除指針では「アブラムシ類」で掲載
4A	チアメトキサム	アクタラ粒剤5		②	②	②							防除指針では「アブラムシ類」で掲載
4A	ニテンピラム	ベストガード水溶剤		②	②	②							防除指針では「アブラムシ類」で掲載
5	スピネトラム	ディアナSC	③	③									防除指針では「アザミウマ類」で掲載
5	スピノサド	スピノエース顆粒水和剤	③	③									防除指針では「アザミウマ類」で掲載
6	アバメクテン	アグリメック									①	①	防除指針では「ハダニ類」で掲載
6	エマメクテン安息香酸塩	アフーム乳剤								○			防除指針では「ハスモンヨトウ」で掲載
6	ミルベメクテン	コロマイト水和剤									①	①	防除指針では「ハダニ類」で掲載
6	レビメクテン	アニキ乳剤								○			防除指針では「ハスモンヨトウ」で掲載
9B	ピメトロジン	チェス顆粒水和剤		②	②	②	④						防除指針では「アブラムシ類」、「オンシツコナジラミ」で掲載
9B	ピリフルキナゾン	コルト顆粒水和剤		②	②	②	④						防除指針では「アブラムシ類」、「オンシツコナジラミ」で掲載
10B	エトキサゾール	パロックフロアブル									①	①	防除指針では「ハダニ類」で掲載
13	クロルフェナビル	コテツフロアブル								○		①	防除指針では「ハスモンヨトウ」、「カンザワハダニ」で掲載
15	クロルフルアズロン	アタブロン乳剤	○							○			防除指針では「ミカンキイロアザミウマ」、「ハスモンヨトウ」で掲載
15	テフルベンズロン	ノーモルト乳剤								○			防除指針では「ハスモンヨトウ」で掲載
15	ノバルロン	カウンター乳剤	③										防除指針では「アザミウマ類」で掲載
15	フルフェノクスロン	カスケード乳剤	③							○			防除指針では「アザミウマ類」、「ハスモンヨトウ」で掲載
15	ルフェヌロン	マッチ乳剤								○			防除指針では「ハスモンヨトウ」で掲載
15	ルフェヌロン	マッチ乳剤	○										防除指針では「ミカンキイロアザミウマ」で掲載
18	クロマフェノジド	マトリックフロアブル								○			防除指針では「ハスモンヨトウ」で掲載
20D	ピフェナゼート	マイトコーネフロアブル									①	①	防除指針では「ハダニ類」で掲載
21A	テブフェンピラド	ピラニカEW											① 防除指針では「カンザワハダニ」で掲載
21A	ピリダベン	サンマイトフロアブル										①	防除指針では「カンザワハダニ」で掲載
21A	フェンピロキシメート	ダニトロンフロアブル										①	防除指針では「カンザワハダニ」で掲載
22A	インドキサカルブ	トルネードエースDF								○			防除指針では「ハスモンヨトウ」で掲載
23	スピロテトラマト	モベントフロアブル	③	③	②	②	④				①	①	防除指針では「アザミウマ類」、「アブラムシ類」、「オンシツコナジラミ」、「ハダニ類」で掲載
25A	シエノピラフェン	スターマイトフロアブル									①	①	防除指針では「ハダニ類」で掲載
25A	シフルメトフェン	ダニサラバフロアブル									①	①	防除指針では「ハダニ類」で掲載
28	クロラントラニリプロール	ブレバソフロアブル5								○			防除指針では「ハスモンヨトウ」で掲載
28	シアントラニリプロール	ベネビアOD			②	②	②	④					防除指針では「アブラムシ類」、「オンシツコナジラミ」で掲載
28	フルベンジアミド	フェニックス顆粒水和剤								○			防除指針では「ハスモンヨトウ」で掲載
29	フロニカミド	ウララDF			②	②	②						防除指針では「アブラムシ類」で掲載
30	フルキサメタミド	グレーシア乳剤	③	③							①	①	防除指針では「アザミウマ類」、「ハダニ類」で掲載
UN	ピリダリル	ブレオフロアブル								○			防除指針では「ハスモンヨトウ」で掲載
-	フロメトキン	ファインセーブフロアブル	③										防除指針では「ミカンキイロアザミウマ」で掲載
-	アシノナビル	ダニオーテフロアブル									①	①	防除指針では「ハダニ類」で掲載
-	グリセリンクエン酸脂肪酸エステル乳剤	ビタイチ	③	③	②	②					①	①	防除指針では「ハダニ類」、「アザミウマ類」、「アブラムシ類」で掲載

①ハダニ類での登録

②アブラムシ類での登録

③アザミウマ類での登録

④コナジラミ類での登録

未成熟とうもろこし
(1) 耕種的防除法等

病 害 虫 名	防 除 適 期	防 除 方 法
苗立枯病	植付前 生育中	○ 酸性土壌で発生しやすいので土壌改良を行う。 ○ 多肥栽培をさける。 ○ 低温で発生しやすいので早出しの作型では注意する。
黒 穂 病	植付前 生育中	○ 連作をしない。 ○ 発病株は、胞子が飛散する前に抜き取り、適正に処分する。 ○ 発病株を堆肥や飼料にしない。 ○ 多雨の年は発生が多いので注意して防除する。
すす紋病	植付前 生育中	○ 連作をしない。 ○ 被害茎葉は、集めて適正に処分する。

8) 未成熟とうもろこし

○未成熟とうもろこし（殺菌剤）

RAC コード	有効成分の名称	農薬の名称	病害虫雑草		備考
			苗立枯病	白絹病	
F:M3/1	1. チウラム 2. ベノミル	ベンレートT水和剤20	○	-	
I:8B	クロルピクリン	クロールピクリン	-	○	とうもろこしでの登録、「白絹病(圃)」のみ採用
I:8B,F:-	クロルピクリン	クロピク80	-	○	とうもろこしでの登録、「白絹病(圃)」のみ採用
I:8B,F:-	クロルピクリン	ドジョウピクリン	-	○	とうもろこしでの登録
I:8B,F:-	クロルピクリン	ドロクロール	-	○	とうもろこしでの登録

(2) 農薬の使用方法

○未成熟とうもろこし(殺虫剤)

IRAC コード	有効成分名	薬剤名	ア ブ ラ ム シ 類	ア ワ ノ メ イ ガ	ヨ ト ウ ム シ	備考
1A	N A C	デナポン粒剤5		○		
4A	アセタミプリド	モスピランS L液剤	○			
			○			
6	エマメクチン安息香酸塩	アフーム乳剤			○	

さやえんどう
(1) 耕種的防除法等

病 害 虫 名	防 除 適 期	防 除 方 法
うどんこ病	生育中	○ うねを高くし通風を良くして栽培する。 ○ 被害茎葉は摘み取って適切に処分する。
褐 斑 病	植付前	○ 種子は健全株から採種する。 ○ 密植や過繁茂にせず風通しを良くする。
立 枯 病	植付前	○ 連作をしない。 ○ カリ肥料を十分に施す。

(2) 農薬の使用方法
 ○さやえんどう(殺菌剤)

FRAC コード	有効成分名	薬剤名	うどんこ病	褐斑病	備考
1	チオファネートメチル	トップジンM水和剤		○	●褐斑病のみ採用
3	トリホリン	サプロール乳剤	○		
3	ミクロブタニル	ラリー水和剤	○		

○さやえんどう（殺虫剤）

IRAC コード	有効成分名	薬剤名	ア ブ ラ ム シ 類	ナ モ グ リ バ エ	ヨ ト ウ ム シ	備考
1B	P A P	エルサン乳剤	○	①	○	防除指針では「アブラムシ類」、「エンドウハモグリバエ類」、「ヨトウムシ」で掲載
1B	ダイアジノン	ダイアジノン乳剤 4 0	○			
3A	エトフェンプロックス	トレボン乳剤			○	
3A	トラロメトリン	スカウトフロアブル		○		
14	カルタップ	パダン S G 水溶剤		○		
14	カルタップ	パダン水溶剤		○		

①エンドウハモグリバエでの登録

さやいんげん

(1) 耕種的防除法等

病害虫名	防除適期	防 除 方 法
かさ枯病	植付前	○ 種子は健全株から採種する。
	生育中	○ 土壌水分の多いところに発病が多い。 ○ 発病株は早期に抜き取り、適切に処理する。
炭 疽 病	植付前	○ 健全な種子を選ぶ。
	生育中	○ 連作をしない。 ○ 肥切れしないようにする。 ○ 発病株は早期に抜き取り、適切に処理する。
褐 斑 病	植付前	○ 健全な種子を選ぶ。

(2) 農薬の使用方法
○さやいんげん（殺菌剤）

FRAC コード	有効成分名	薬剤名	菌 核 病	備考
12	フルジオキシニル	セイビアーフロアブル20	○	●菌核病のみ採用

○さやいんげん（殺虫剤）

IRAC コード	有効成分名	薬剤名	ア ブ ラ ム シ 類	ハ ダ ニ 類	フ キ ノ メ イ ガ	備考
1B	P A P	エルサン乳剤	○		○	
1B	ダイアジノン	ダイアジノン乳剤 4 0	○			
21A	フェンピロキシメート	ダニトロンフロアブル		○		